

輸送経済新聞

乗換運行、2便体制へ

東北―九州間で品質向上

第一貨物 久留米運送 JTLの枠組み活用

第一貨物(本社・山形 久留米運送大分支店)が、市、武藤幸規社長)と久留米運送(同・福岡県久留米市、二又茂明社長)は八日、第一貨物山形支店(山形市)と久留米運送飯塚店(福岡県小竹町)間で乗り換え運行を開始した。北大阪トラックターミナル(北大阪T)でドライバーが交代する。輸送品質の向上とドライバーの労働時間の改善を目的とした東北九州間の幹線共同運行は、二便体制に移行した。

東北発九州着で約半日短縮 第一便は両社のトラックドライバーは第一貨物各営業所を出発。中継拠点の北大阪Tで、ドライバーが相互に乗り換え。今回の第二便ではリワードタイムは第一貨物



乗り換え運行第2便の出発式。仲島順第一貨物大阪支社長(左)、岩田裕之久留米運送常務(右)と両社の乗り換え専属ドライバー(5月8日午前、北大阪トラックターミナルで)

物山形支店発九州向け貨物で約半日短縮する。トラックが山形支店から午後八時ごろ出発。翌午前九時ごろに北大阪Tに着き、そこで久留米運送のドライバーにバトンタッチ。同日午後七時ごろには久留米運送飯塚店に到着する。ここで荷物をばらして九州各地に向かうトラックに積み直し、翌日午前七時ごろには九州全域への配達が完了。山形支店発のトラックは貨物の積み替えなしで飯塚店まで直行するが、飯塚店発東北向けの貨物が一車分に満たなかったため、当面は北大阪Tで貨物を積み替える。将来的には東北向けの十分な荷量を確保し、両方向で積み替えなしの乗り換え運行を目指す。

同運行は、第一貨物、久留米運送、トナミホールディングス(本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長)三社の合弁会社ジャパン・トランス・ライン(JTL、本社・東京、坂田昭雄社長)による関東―関西間の幹線運行に端を発する。今回の第二便開始もJTL運行部会で協議を重ねた結果。トナミも共同運行参加検討 トナミHDの中核会社であるトナミ運輸(本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長)も、第一貨物と久留米運送との輸送の往復バランスを改善する輸送効率化の表現に向け、今後、引き続き共同幹線運行への参加を検討する。(丸山 隆彦)